

平成27年度医薬基盤・健康・栄養研究所における 創薬支援ネットワークの活動計画

(独) 医薬基盤研究所
平成27年3月4日

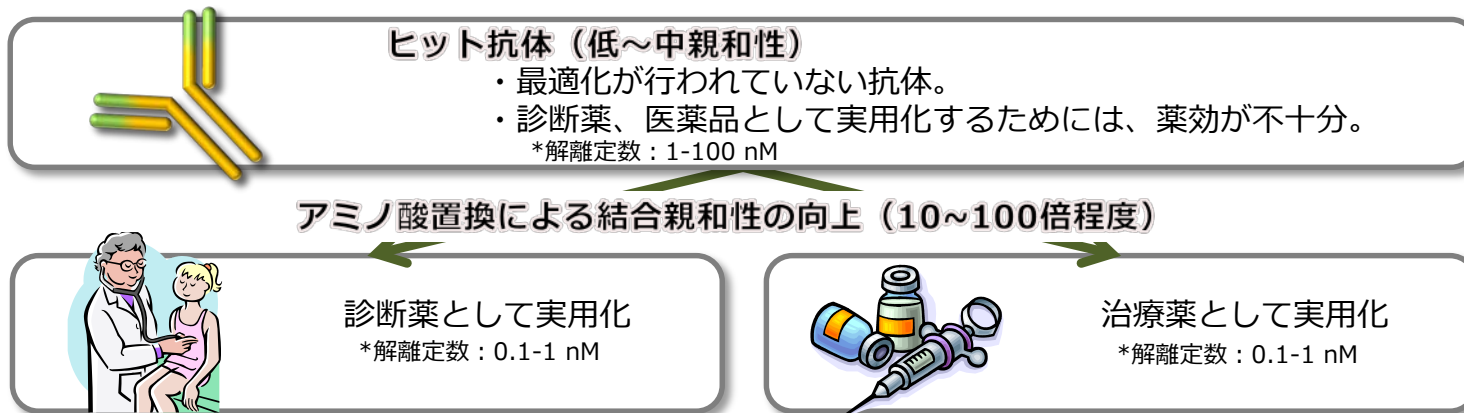
1 平成27年度予算案に関しては、インハウス予算として5.4億円が盛り込まれている。

2 創薬デザイン研究センター(仮称)の設置等による創薬支援の強化

- 抗体・核酸の専門家が集積する創薬支援スクリーニングセンターについて、抗体・核酸のスクリーニングと同時に、最適化のプロセスまで実施できる体制を整備し、新たに創薬デザイン研究センター(仮称)として設置(26年度補正予算:4.5億円、27年度予算案:0.1億円)。

当センターにおいて、創薬支援ネットワークによる技術支援として、抗体・核酸のスクリーニングから最適化まで切れ目なく行うことにより、革新的なバイオ医薬品の創出に貢献。

抗体医薬の最適化(例)



- 創薬支援戦略室の移管後も、従来のつながりを活かし、引き続き自ら研究部門を含めて所全体で創薬支援戦略室を強力にバックアップするとともに、技術支援を実施。

3 創薬支援ネットワークに貢献する創薬支援技術の研究開発

創薬支援ネットワークによる創薬支援に資するよう、インフォマティクス強化、抗体・核酸スクリーニング基盤の強化、臨床予見性を向上させる生物資源の開発等の研究開発を実施。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 中長期目標案(抄)

第1 政策体系における法人の位置付け及び役割(ミッション)

…両法人のこれまでの研究活動や成果、統合の経緯等も踏まえつつ、国の政策等に沿うという観点から、本研究所が以下のような役割を果たすことを期待する。

(1) (略)

(2) 創薬支援ネットワークにおいて、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(以下「日本医療研究開発機構」という。)等と緊密に連携しつつ、引き続きネットワークの中核を担うとともに、新薬創出に貢献するため、抗体・核酸のスクリーニング、最適化を始めとする技術支援を積極的に行うこと。

(3)～(5) (略)

第3 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

A. 医薬品等に関する事項

1. 基盤的技術の研究及び創薬等支援

世界最高水準の医療の提供に寄与する革新的な医薬品等の開発に資するよう事業を実施するという観点から、難病対策、新興・再興感染症対策、迅速な新薬等の開発、抗体・核酸医薬等の開発の推進等の国の政策課題の解決と国の経済成長に寄与することを目標に、以下の研究及び創薬等支援に取り組むこと。

なお、創薬支援ネットワークの一環として創薬支援を行う場合は、日本医療研究開発機構等と緊密に連携を図ること。

(1)～(4) (略)

2. 生物資源に係る研究及び創薬等支援

ヒト組織・細胞、疾患モデル動物、薬用植物、実験用霊長類等の生物資源は、医薬品等の開発に有用なツールであることを踏まえ、これまで蓄積した専門性や経験も活かしつつ、革新的な医薬品等の開発に資するべく、これらの生物資源の研究開発、収集、維持、品質管理、提供に関し、以下の研究及び創薬等支援に取り組むこと。

なお、創薬支援ネットワークの一環として創薬支援を行う場合は、日本医療研究開発機構等と緊密に連携を図ること。

(1)～(3) (略)

※ 中長期目標案については、現在、作成中であり、今後、変更が入り得る。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 中長期計画(抄)

中長期目標案を踏まえ、現在、素案を作成中。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 27年度 年度計画(抄)

中長期目標案を踏まえ、現在、素案を作成中。